FIWC
Friends International Work Camps

フレンズ国際労働キャンプ(FIWC) 関西委員会
定例委員会報告
2003 年 6 月号

参加者:劉成道、青山哲也、神戸悦里、森田健一郎、中山雅恵、入澤隆一、松本モト、福田きよ子、西村麻里、香川朋子、徳永なつ、森岡麻衣、岩本絵梨子、宮田武宏、槻美代子、馬庚希、知念洋史、國分伸浩、戸張岳陽、藤井詩乃、橋本菜美、須川浩和、宮田久美
2003 年 6 月 21 日　交流の家にて　担当：香川朋子

長島愛生園の夏祭り

恒例となった愛生園の夏祭りの季節になりました。今年も準備や片付け、チンドン隊として祭りを盛り上げます。普段は静かに生活されている島に祭ばやしがあふれる年に一回の機会です。ぜひ一度参加してください。この活動は体の具合などで祭会場まで足を運べない人に音楽を届けようと始まりました。いまでは私たちを心待ちにしている人も多くいます。

総リーダー：青山哲也　　演奏リーダー：戸張岳陽
東京グループリーダー：原田健一
広島グループリーダー：川嵜健吾（FIWC 広島委員会）

日程	愛生園夏祭り	7 月 31 日（木）
	準備	7 月 30 日（水）
	後片付け	8 月 1 日（金）

宿泊可能な日：7 月 29 日（水）、30 日（木）、31 日（金）
予定宿泊所：愛生園内の宿泊所の光風荘、清風荘　定員約 18 人。広島委員会は別の場所で宿泊します。
チンドン隊ではおのおの仮装し、楽器を持ち寄って、祭当日のお昼から夕方にかけて愛生園内を練り歩きます。仮装はどんなものでもOK です。関西や関東では参加予定者が集まって演奏の練習をしています。関西は 6 月 27 日・28 日から毎週金曜の夜からと土曜に長居公演で練習します。関西の参加者は戸張まで、関東の参加者は原田まで問い合わせてください。
部分参加も受け付けますが事前に青山か原田まで連絡してください。ただ、当日朝に行うミーティングには必ず参加してください。
愛生園へは電車とバスか車で行くことになります。参加日程によってできるだけ何人かが集まっていけるように調整しますので各地区のリーダーまで連絡してください。

国立療養所長島愛生園

岡山県邑久郡邑久町虫明 6539　〒 701-4501　TEL：08692-5-0321
最寄駅：JR 赤穂線邑久駅　駅前よりバスに乗り換えて愛生園へ。

祭当日に演奏する曲目（予定）

1. 炭鉱節　　2. 月の砂漠
3. 浜辺の唄　　4. インターナショナル
5. 青い鳥行進曲（愛生園盲人会のハーモニカ楽団が演奏していたオリジナル曲です）

これまでの演奏曲　（この中から演奏する場合もあります）
アリラン、トラジ、お富さん、十九の春、安里屋ユンタ、上を向いて歩こう、花、鉄道唱歌、ハイサイおじさん、東京キッド、オクラホマ・ミキサー、美しき天然、蒲田行進曲、青い山脈、月がとっても青いから、カチューシャの唄
（青山哲也）

2003 年度　韓国キャンプ

お泊り会：7/12（土）～ 13（日）　邑久光明園にて家庭訪問などをする予定です。光明園は、日本の療養所で瀬戸内海に浮かぶ長島というところにあります。光明園にはハンセン病にかかり、強制的に収容された後、50 年以上もそこで暮らす方達もいらっしゃいます。光明園では、ハンセン病の歴史と共に生きてきた人々のお話を生で聞くことができます。当日は、電車とバスを利用して行くことを考えています。是非、一度参加してください。（連絡先:志賀純子まで）

キャンプスケジュール

準備キャンプ　8/2（土）～ 6（水）午前中まで（交流の家）
準備キャンプでは、キャンプに向けて、勉強会（ハンセン病・韓国語）、窯小屋改装を行います。

8/2（土）　16:00　交流の家　集合
8/3（日）　9:00 ～　大倭の大掃除に参加します。
8/6（水）　交流の家を出発　大阪南港へ　16:00 フェリー出港
8/7（木）　釜山　到着　　午後からキャンプスタート
8/7（木）～ 17（月）　キャンプ三昧の日々！！
8/18（月）キャンプアウト
　　午前：後片付け　午後：大田にある忠南大学へ
8/19（火）現地解散

説明会

6/29（日）14:00 ～ 京都市中京区青少年活動センター小会議室 A
（森田健一郎）

韓国キャンプ　先先発隊　報告

6 月 8 日～ 9 日にかけてキャンプ地に行ってきました。
今回の活動では村が抱える問題、平日の村の様子などが見られ、また新たな 1 面を発見することができました。以下が報告です。
（劉成道）

信楽園とは？

1962 年テグにいたルーディー神父が管理者となって村作りがはじめられた。はじめ、日本からセメントを輸入などをし、家 8 棟が建てられた。また、トウモロコシや小麦粉などもルーディー神父から支援された。村の経済的自立を図るため、1 家族に対して牛 1 頭、豚 2 頭、ひよこ 0 匹もルーディー神父から支援された。治療担当としてエンマ医師もルーディー神父とともに村の支援に協力した。ルーディー神父は 4、5 年の業務を終え、村を去ることになったが、エンマ医師は今でも村の関係を続けている。
1973 年第二次石油危機の頃、村の畜産業がだめになった。そのため農業へと移行を図る。（田：600 坪、畑：400 坪）しかし、77 年に再び畜産業へと戻ることにする。はじめ、3 家族が 1 家族につきにわとり 1000 羽ずつ持ち、養鶏をスタートさせる。この流れは現在にも続き、村全体で 10 家族が養鶏を営むようにまでなった。
畜産（養鶏）を営む際に必要になってくるのは飼料だ。村人にはも

ともと資金がないため、この飼料を買うにはつけとして買わざるをえなかった。つけとして買う場合、もともとの買価プラス利子まで払わないといけないため、一般の人たちよりも高く買わされる羽目になってしまった。そして次買う時は、前回つけておいた分＋今回の飼料費払わないといけない。そしてその次は・・・。つまり、次の飼料を買うまでにしっかり稼げなかった場合、負債がどんどん積もっていくのである。畜産施設を改めていこうとする場合も同じことが言える。こういった問題に対しては政府からの支援を受けられなかったらしい。子供に家業を継がせたいと思っても、借金も同時に継がせなければならなくなるので、なかなか継がせにくく、親世代としても非常に残念だということだ。村の代表さんが自負するものとして、交通の便がいいこと、健康センター、敬老院といった施設が他の定着村に比べ、整っていること、上記に挙げたものを実現していく家庭で持ちえた人間関係を挙げてくれた。一方短所としては経済的な面で不安をかかげているということだ。現在村には 70 人住んでいるという。10 家族が養鶏を営み、25 名の方が政府からの生活保護金（17 ウォン /1 ヶ月）で生活している。

＊村の人への質問

Q 家庭ワークでして欲しいものは何ですか？

今明確には答えられないといった意見がほとんどであった。卵の摘み取り作業、豚の排泄物除去作業といったものはいつもしなくてはいけない作業なので、いつでもさしてあげるといった感じであった。大人たちにコンピュータを教えて欲しいと言った意見もあった。

Q 普段の生活リズムは？

代表さんに問うてみたところ、養鶏施設が機械化されていない家では朝 4 時起床だという。朝食を食べる前に施設の清掃、えさをやるという。平均的に午後 3 時ごろに仕事を終えるという。

＊健康センターについて

昨年、政府からの支援金によって建てられた施設。村の中央に位置する、ワークキャンプには似つかわしくない非常に清潔そうな建物。キャンプ期間中、宿舎として利用させていただけるようになっている。中には台所、シャワー場、マッサージ機、テレビなどがある。普段は朝 9 時に門が開かれる。とはいっても常駐している人がいるわけではない。普段は村に住むおばさんたちの憩いの場になっているようだ。僕が訪問していた間もここでテレビを見ながらだらけていたり、花札をしていたりしていた。ここのシャワーは夜時間が来るとボイラーが自動的に作動するようになっているため温水が出る。健康センターの維持費は村人によって支払っている。

マッサージ機を使用する際 500 ウォンを支払わなければいけない。というのは電気代を食うからだ。それもさることながら、もし、ただにしてしまうと誰かが独占してしまう可能性があるのでお金を支払う制度にしているという理由もあるそうだ。シャワーを利用するのも 1 回 1500 ウォンを支払わなくてはならない。下見の際一度、村の代表さんからキャンプ期間中このシャワー場を僕たちがただで使ってもいいという許可を頂いているが、普段村の方はお金払って利用しているのに、僕たちがただで利用するのは申し訳ない思いがするので、建物外に簡易シャワー室を設置し、そこで体を洗いますのでと勝手ながら僕の意見として代表さんに申し上げてきました。代表さんは「好きにしなさい」おっしゃっていました。

＊ノ＝ジェトクさんについて

村の下側に住んでいる方だ。子供が 3 人いて、内一人（中 3）は日本に非常に関心があるという。養鶏を営んでおられ村では 3 番目の規模となる 1 万 8000 羽飼育している。副業としてフォークレーンを使った作業を村の外に出て行っているという。生まれてからこの村で暮らしている。父親の代からだという。父親は 20 年前になくなっている。奥さんはキムチョンの出身。キャンプ中は養鶏の手伝いをして欲しいということだ。

＊韓国キャンプに参加したい方は、資料などを郵送しますので 6 ／ 30（月）までに森田健一郎までご連絡ください。

＊キャンプに参加する人は、お泊り会・準備キャンプから参加していただけるとうれしいです。

大倭の大掃除あります

8 月 3 日（日）9 時から大倭の大掃除あります。いつもお世話になっている村の大掃除です。キャンパーは奮ってご参加ください。

（岸野・松本・きよ子）

光明園夏祭り

8 月 5 日に、国立ハンセン病療養所邑久光明園にて恒例の夏祭りが行われます。

私たちも、輪投げとヨーヨーつりでお祭りに協力しようと思います。お祭り準備のため参加される方はできるだけ前日の夜までに現地に来てください。6 日の昼過ぎに園を発つ予定です。皆さんの参加お待ちしております。参加される方は福田きよ子までお願いします。

（福田きよ子）

西村麻里さんがついに結婚！！！

キャンパーの西村麻里さんがジョナへのメンバーのハン・キナムさんと晴れて結婚することになりました。

それを祝って交流の家で結婚パーティーを行うことにしました。7 月 20 日、日曜日、午後 1 時より交流の家で行いますので皆さんふるってご参加下さい。

参加費 2000 円の予定。参加される方は青山まで。

（青山哲也）

介護の方募集

以前交流の家向かいの菅原園に入所されていた山村勉さんが介護の方を探しておられます。（18 時から翌日の 8 時まで、5000 円（交通費含む）で月 2 回ぐらい）現在山村さんは茨木市在住で大阪生野区にある夜間高校に通い大学を目指し奮闘中です。ご協力できる方があればよろしくお願いします。

（山村勉、巽重雄）

教育学部総合講座―人権への視座―

公開講座「ハンセン病これまでとこれから」一般参加可

企画協力：早稲田大学　平山郁夫　記念ボランティアセンター

映画「あつい壁」上映

2003 年 7 月 10 日　16:20 ～ 17:55 映画「あつい壁」上映（1 時間 35 分）

18:05 ～ 19:00 解説：中山節夫（映画監督）

場所：早稲田大学井深大記念ホール

筑紫哲也講演「交流の家建設運動」

2003 年 7 月 17 日　16:20 ～ 17:50

場所：早稲田大学 14 号館 B101 教室（予定）

※会場は変更の可能性があるので事前にホームページ（http://www.waseda.ac.jp/wavoc/）で必ず確認してください。

お問い合わせ先：西尾雄志

人権教育講座開催

日時：2003 年 6 月 26 日（木）午後 1 時半より
場所：川西文化会館サークル室
内容：スライド　解説　佐渡裟智子
講演：快復退所者　弁護士　海川直毅
　　ハンセン病文芸朗読　支援者　佐渡裟智子

交流の家から

維持費カンパいただいた方
賀好宣捷様　　ありがとうございました。
※ 2001 年 5 月に発行したむすび新聞の残金は交流の家会計とさせて頂きました。詳しい報告は年末の会計報告でお伝えします。
郵便振込 00990-7-64532　交流の家
（福田きよ子）

FIWC 関西委員会会計報告

2002 年 6 月～ 2003 年 5 月まで

収入	年会費及びカンパ 84 人分	407190 円
	2002 年韓国キャンプ残金	189947 円
	その他（本の売上金、関東からの発送費など）	20100 円
	収入小計	617237 円
支出	定例会だより発送費	320170 円
	交流の家使用料（3000 円× 10 ヶ月）	30000 円
	2003 年韓国キャンプ立て替え費	100018 円
	雑費（コピーマスター代、封筒代など）	66371 円
	印刷機修理代	20000 円
	支出小計	536559 円

以上より 80678 円（617237 円― 536559 円）の黒字です。

たくさんの年会費及びカンパのご協力ありがとうございました。委員会費は毎月行われている定例会便り、発送のため使われています。FIWC 関西委員会の生の情報をより多くの方に発送できるよう、振込用紙を同封しますのでどうかご協力おねがいします。
（志賀純子）

新人看護師奮闘記

徳永なつ（京都市内病院勤務）
90 歳男性、血圧徐々に低下し 30/18。あと数時間後に死が来るなーとスタッフ全員が知っている。その時私がふと見たもの、担当医師の「死亡診断書」を書いている姿。目を疑った。でもやっぱりその患者さんの名前。がーん。こんなこと！この若ぞうめ！ともっと、もっと若ぞうの私は思う。しかし私は何も言えず退散。帰宅後電話で母に話すと「暇な病院だねぇ。」と。そうか！そういう風に飛ばしていこう！今度そんな場面に合えば、「先生よっぽどお暇なんですねぇ。」って。そんなこともありながら、明日もがんばる新人ナース 3 ヶ月目でした。（つづく）

耶馬溪田植えの報告

6/3（火）～ 6/14（土）まで、耶馬溪のキャンパー鈴木さんのお宅で田植えをしました。今年は不耕起栽培をとりいれたため、四枚の田んぼを手植えで仕上げました。
その他、卵の出荷も手伝いました。
キャンプ中の 6/7（土）の夜、キャンパーたちで近くの温泉に行った帰り、車の事故を起こしました。同乗していたキャンパーは怪我をしましたが、現在快方に向かっています。この事故で、ガードレールと民家のブロック塀を破損しました。
今回の事故は無理な運転が原因であったこと、結果的に警察に連絡するのが遅れたことなど対応に問題があったため、このことについて 6 月の定例委員会の翌日に話し合いをもちました。確認事項を以下にまとめます。

〇運転者の責任として今後は無理な運転をしない。事故への備えをする。
〇現場に居合わせたキャンパーの責任として、運転者に対して安全運転を促す。
〇事故の時、当事者は動揺しているので周りのものが警察に連絡するか、連絡するように当事者を説得する。
〇集団として定例委員会や定例委員会報告で田植えの募集をしたにもかかわらず、責任者を決めず個人参加のような形をとった。そのため、「キャンプに参加する。」という意識をもたずに参加した人が多かった。今後はどのような活動でも責任者を決めるとともに、参加者がそれぞれ自分の責任を自覚して活動する。
〇今回は FIWC 関西委員会の責任者である委員長に報告が遅れた。すぐに報告していれば委員会（ワークキャンプ）として適切な対応ができた可能性がある。
〇今後は活動について常に委員長に報告する。

今回の耶馬溪でのキャンプはもちろん、最近の定例委員会や各キャンプで、キャンパー同士のなれあいが非常に目立ちます。自由とはきちがえた個人の勝手気ままを許容しすぎる面が強くあったと思います。私たちは何のために活動しているのかを自覚することが必要だという認識を共有しあいました。
　また、これらのことを、普段の定例会やキャンプの参加のしかたに反映させようと話し合いました。
（西村麻里）

今回の事故で皆さんに色々と心配をおかけして大変申し訳ございませんでした。今回の事故は、私の常識のなさから始まった結果です。そのせいで、FIWC の皆さんに心配、お手数をかけたことを、この場をかりてお詫びさせていただきたいと思います。
今回、事故を通して、私自身たくさんの事を考えることができました。そして、FIWC の皆さんに救われました。本来なら 1 人で考え、処理しなくてはいけない問題を、温かく助けてくださったことにとても感謝しています。今後このような事を二度と起さようにしっかり自覚を持ち参加したいと思っているので、今後もよろしくお願いいたします。
（桑形さおり）

今回の担当は香川朋子でした。
来月の担当は新人キャンパーの神戸悦美です。
来月の定例委員会は 7 月 19 日（土）午後 7 時から交流の家の家にて行います。みなさん是非来てください。

文責：劉成道、徳永なつ

発行：フレンズ国際労働キャンプ（FIWC）関西委員会
委員長　劉成道（※先週無事、韓国から帰ってきました。これからもよろしく！！）

※ PDF 版では個人の電話番号など個人情報を掲載していません。必要な場合はメールにてお問い合わせください。web@mognet.org
PDF 版製作：茂木亮